

「山川小学校の郷土芸能学習会の取組」

1 学校名

指宿市立山川小学校

2 学年・人数

6年生 58人

3 日時・場所

(1) 日時

令和5年7月8日(土) 10:00～11:10

(2) 場所

山川小学校体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

- 利永琉球傘踊り(利永区) 福元棒踊り(福元区)
- 成川そば切り踊り(成川区) 成川南方神社神舞(成川区)

(2) 由来

利永琉球傘踊り

江戸時代、琉球使節団が、枚聞神社に航海の無事のお礼をするため、道すがら踊られた踊りをまねて創られたと言われている。

福元棒踊り

明治時代から山川福元区で踊られていた郷土芸能であり、一説では、港町であった山川に琉球から伝わったと言われている。

成川そば切り踊り

時代は不明だが、山川成川の前菌集落に目の不自由な祈祷師がやってきた。村人の平安を祈願し相談相手となっていた祈祷師を「あからんどん」と呼び小屋を作るなど仲良くしていたが、この小屋が火事となった時、祈祷師はそば汁で火を消し止めたという。村人は再び火災を起こさぬよう旧暦12月14日を「あからんどんの日」とし、そばを客に振る舞うようになった。このエピソードを後世に伝えるため考えられたのが踊りの起源とされている。

成川南方神社神舞

諏訪大明神(現:南方神社)の神事の一つとして、3年に1度、10月に2日間行われる。大祝子(今でいう宮司)の有村純定が藩主島津光久の前で神舞を踊ったことが記されている。360年以上の歴史を持つとされ、現在は33番のうち、14番が舞われている。

(3) 構成等

利永琉球傘踊り

3列縦隊で踊る。踊り手は、並ぶ列によって、傘と扇子、扇子、太鼓、鉦、笛と持つ道具や楽器が異なる。ゆったりとした動きで、踊り手の掛け声で首を上下左右に振ったり、手を大きく振るなどユーモラスである。

福元棒踊り

六尺棒を持った2人と三尺棒を持った4人が1組となり、前後で入れ替わりながら、棒を打ち合う。衣装に白色・赤色・翠色の3色のたすきをかけ、激しく踊るとたすきも激しく揺れ動くなど、とても勇壮である。

○ 成川そば切り踊り

三味線7人、唄い手2人、踊り手10名、鐘1人、太鼓1人で構成され、両手の銭太鼓を左右に回したり、鎌に持ち替えてそば切りのまねをする。そば切りの道具が登場すると母と娘(ケサガメ)がアドリブで掛け合いをし、最後にケサガメがハンヤ節を踊る。

○ 成川南方神社神舞

舞台にて、笛や太鼓の音色に合わせて様々な種類の面や色鮮やかな衣装をまとった踊り手の躍動感あふれる舞が披露される。子、親、祖父母世代の踊り手と関係者協力のもと盛大に行われ、舞に対して観客から大きな歓声上がる。

5 保存会や地域との連携の具体

- それぞれの地域の保存会が中心となって練習等を計画し、活動を行っている。
- 学校での郷土芸能学習会は、校区公民館主事を中心に保存会の方に来校していただき、講師として学習を進めている。

6 文化財伝承・活用の取組で工夫した点

山川小学校校区学校応援団活動の一環として実施している。保存会の方に由来や道具の意味、踊りの振り付けなど教えていただき、実際に棒踊りを踊ってみるなどの体験を行った。

7 取組の様子（学習状況等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【6年生児童】

- ・ 棒踊りのリズムがとても良かった。
- ・ 近所に伝わる成川そば切り踊りも体験してみたい。

【教職員】

- ・ 地域に伝わる伝統文化を学べる貴重な機会だった。普段はこのような機会が少なく、子どもたちにとって有意義な時間であったと思う。また、職員においても山川地域の伝統芸能を知ることができて良かった。

【保存会から】

- ・ 山川地域の子どもたちに自分たちの地域に伝わる踊りのことを知ってほしい。また、地域の大切な伝統文化を学んでもらいたい。